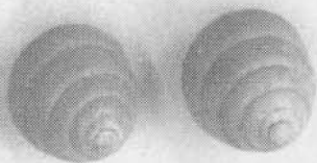


高柳コレクションと富山県の陸貝

湊 宏

はじめに

富山県の陸産貝類についての報告は、古い記録ではありますが、故菊池勘左衛門さんの報告(1940)*があるのみで今日では、はなはだ少ないものです。その菊池さんによれば、当時の分類に従って75種の陸貝目録が記録されています。その目録の中に、時々、「高柳」の名が見出されますが、これは戦前から富山県内で活躍されていました高柳 博さんの記録の一部なのです。本誌の26号、P.10で紹介されておりますように、昭和58年12月30日、高柳さんは74才で亡くなりましたが、生前収集されました貝類コレクションが、郷里の富山市科学文化センターへ本人のご意志とご遺族のご好意によって寄贈されました。私事で恐縮ですが、20年前に私は高柳さんと文通を始め、いろいろ富山県の陸貝についてご教示いただいております。昭和44年7月29日、私は北陸採集行の途上、魚津市友道の高柳さん宅に立寄り、ちょうどその時、調査対象にしていたヤマメタニシが棲息するという朝日町宮崎の鹿島神社へご案内いただいたことがありました。暖地性植物群落が繁る林内で採集したのですが、ヤマメタニシがアオキやツバキの木の葉裏に付着するという生態状況を高柳さんから直接現場でご教示いただき、大変感激したものでした(この年の9月にも私は本種の写真撮影に宮崎を再び訪れている)。この日、鹿島神社では短時間のうちに、クロイワマイマイ(低地型)、ニッポンマイマイ、ナミギセル、ミジンヤマタニシなどが採集されました。



ヤマタカマイマイ

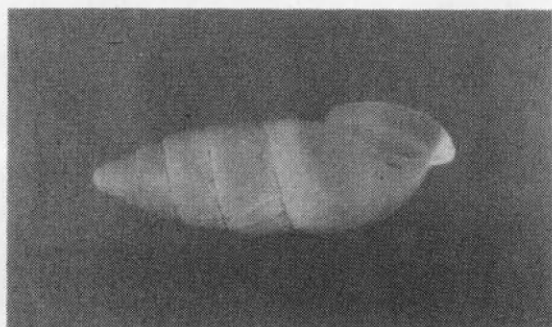
高柳コレクションと陸貝

高柳さんは生前、コレクションのうちの陸貝を私に見てほしいというご希望をもっておられました(亡くなられる2年前ごろの年賀状などに…)が、ついに前述しましたように旅立れました。この高柳さんのご希望を実現したいという科学文化センターからの高柳コレクション調査依頼がありましたので、私は昭和60(1985)年8月1日、富山を訪れて高柳コレクションに接し、一日かけて陸貝コレクションを調べさせていただきました。高柳コレクションは海産貝類が圧倒的に種類も量も多いのですが、陸貝は整理篋箱のうちの四箱に収められ、一種類(産地)ごとにプラスチックの小型ケースに収納されておりました。ざっと見たところ、高柳コレクション(陸貝)は次の通りです。(1)キセルガイ類：県内産20ケース、県外産140ケース、(2)キセルガイモドキ類：県内産6ケース、(3)ヒダリマキマイマイ：県内産10ケース、県外産20ケース、(4)クロイワマイマイ系：県内産約35ケース、県外産16ケース、(5)他の陸貝(前鰓類、ナンバンマイマイ科、オナジマイマイ科など)：県内産24ケース、県外産208ケース、(6)外国産：18ケース。ご自分で採集された富山県産のほかに、全国の同好者と交換で入手されたと思われる種類も多数含まれています。ただラベルには学名、和名、採集地の記入があるのですが、採集年月日、採集者名などが欠けていますので、いつごろの採集であるのかかわからないのが残念です。県外産の標本の中で、今では環境などが大きく変わったために入手の難しいもの、あるいは地理的分布上貴重なものなど、例えばオカミミガイ(岡山市笹ヶ瀬川口)、ヒロクチコギセル(沼津)、フサンムシオイ(朝鮮半島)、カタマイマイ、ヒメカタマイマイ(小笠原)、カスガコギセル(模式産地・奈良春日山)なども見られました。またキセルガイ類は県外産の種類が多く、奄美・沖縄など全国各地の主要なものもよく集められています。

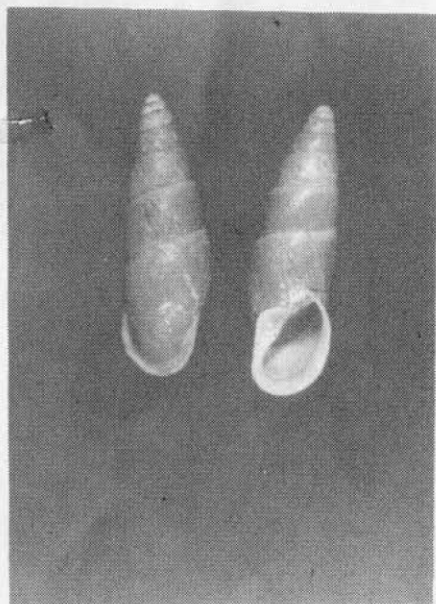
富 山 県 の 陸 貝

以下、高柳コレクションを基にした富山県の主要な陸貝について述べてみます。キセルガイモドキ類については県下で3種類(キセルモドキ、フトキセルモドキ、クリイロキセルモドキ)記録されていますが、県内産6ケースの中に赤祖父山のクリイロキセルモドキ(菊池目録ではエチゴキセルモドキとされている)がありました。本種は“日本海要素型分布”をするキセルガイモドキ類で、ブナ林などに付着していますが県下の産地は多くはありません。また、菊池目録でも2ヵ所からのみ記録されているだけですから赤祖父産の本種は貴重な標本です。キセルガイ類は富山県でこれま

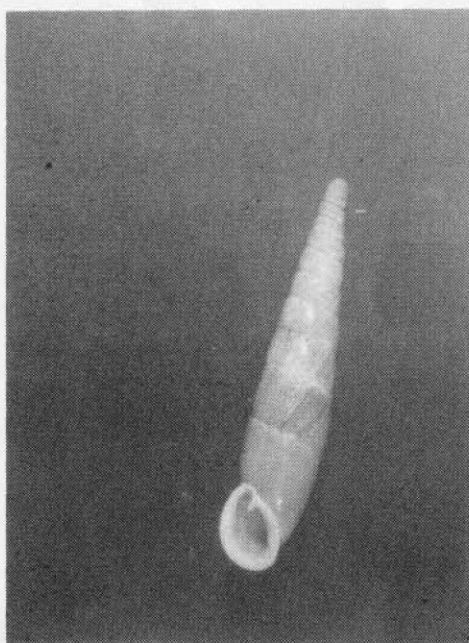
で、ハゲギセル、ヒメギセル(ウゼン)、キヌハダギセル(ナガギセル)、ナミギセル、オオタキコギセルの5種類が記録されていましたが、今回の高柳コレクションの中から立山町藤橋で採れたホソヒメギセル(3個体)が新たに加わり、県内産は6種類となりました。県内をもっと精査すれば、白山山系に分布するトノサマガセル、オクガタギセル、エルベルギセル、コンボウギセルなど見つかるかもしれません。キヌハダギセルは上信越地方に分布し、淡黄色のつやのある殻表をもつ美しい種類ですが、その分布の西限と思われる富山県東部に産することは注目したいと思います。高柳コレクションにあるキセルガイ類が数多く採集され



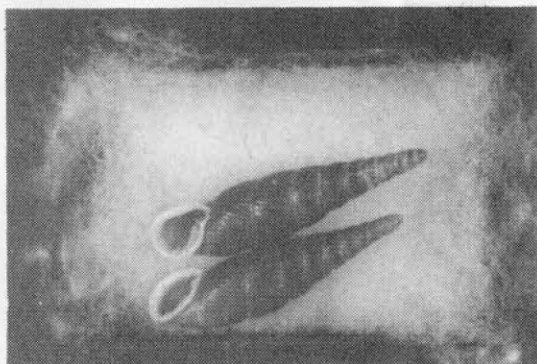
キ セ ル モ ド キ



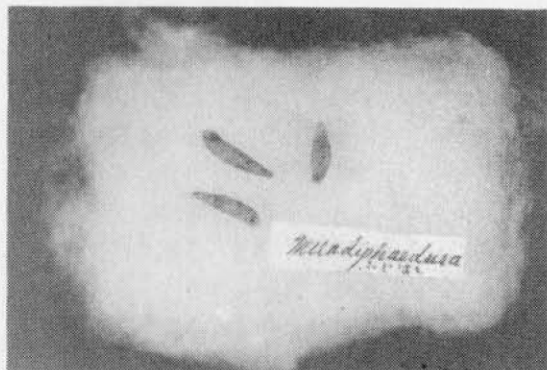
クリイロキセルモドキ



キヌハダギセル



ナ ミ ギ セ ル



ホソヒメギセル

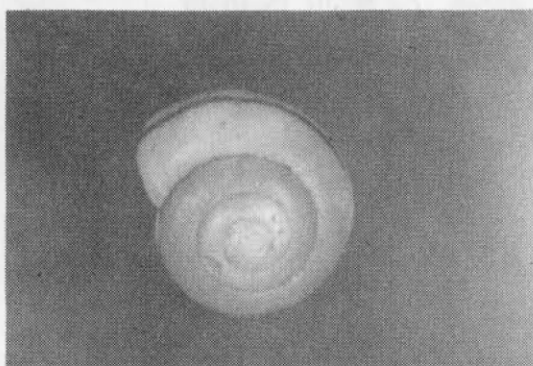
た場所は、朝日町宮崎・鹿島神社(4種類)、立山町藤橋(5種類)などです。白山を模式産地とするわが国最大最美のクロイワマイマイは、ここ富山の山岳地帯にも広く分布しています(称名奥地で採集されたとされるものは白山型で大きい)が、低山帯になると大きさも色彩も淡くなるノトマイマイ(クロイワマイマイの低地型)に移行するようです。高柳コレクションの中では殊に多く収集されていますので、今後この仲間を検討するのには



クロイワマイマイ

良い材料になると思われます。ヒダリマキマイマイも県下に広く分布し、前種とともに富山県での大型のマイマイ類ですが、巻き方が左巻なので区別は容易です。また標本数がわずかであることから、県下での産地が限られると思われるものにヤマカマイマイ、コガネマイマイなどがあります。他に宇奈月町栗虫のケハダビロウドマイマイは前述のホソヒメギセルとともに、この高柳コレクションで初めて富山県下に分布することがわかった貴重な種類です。さらに標本中に見出した赤祖父山(1934年採集)のヤママメタニシ(4個体)は、新産地として記録する価値があるでしょう。以上

わずか短時間での高柳コレクションの散見であり



ヒダリマキマイマイ



ケハダビロウドマイマイ

ましたが、陸貝についてのコメントを述べさせていただきました。終りに、高柳コレクションを見る機会を与えていただきました長井真隆館長、布村 昇主任学芸員に謝意を申し上げますとともに、一日も早く高柳コレクションを整理され、その目録を刊行されることを念願しております。

参考文献

* 菊池勘左衛門(1940): 富山県の陸産貝類目録。富山高校博物同好会誌、(4): 5-20。

(みなと ひろし 和歌山県立熊野高校教諭)

表紙によせて

キタテハは成虫で越冬する。春さき早くに出てくる昆虫にとってヤナギの花はよい食物で、キタテハにとってもそうである。ずっと近づいても、気にもかけず吸蜜をしていた。